

峰高だより



発行：京都府立峰山高等学校広報担当 所在地：京都府京丹後市峰山町古殿 1185 番地
Tel:0772-62-1012 Fax :0772-62-1013 www.kyoto-be.ne.jp/mineyama-hs/

平成29年度 入学式

桜の花も咲きそろった4月11日(火)、平成29年度入学式を行いました。新入生229名(本校189名、分校40名)が入学許可を受け、希望を胸に高校生活の第一歩を踏み出しました。

校長は式辞で、新たに高校生活を始める生徒たちに2つの話を贈りました。一つ目は、峰高出身の先輩である谷垣雄三医師のニジェールでの素晴らしい医療活動を紹介し、多くの峰高生がこのような偉大な人になってくれることを期待していると述べました。二つ目は、熊本の震災で被災した高校1年生が書いた「普通の生活が送れることの大切さ」の気付きと、「自分を生かせる社会に役立つ仕事を見つけていきたい」という決意が綴られた作文を読み上げ、皆さんは、これら2つの話から多くのことを感じ、たくさんの思いを心に抱いてくれるものと確信していると、期待の言葉を述べました。



新入生を代表して、中江 基希さん(丹後中出身)が、「学校の規則をしっかりと守り、誇りある峰山高等学校の生徒として、その本分を尽くすことを誓います。」と宣誓を行いました。

また、在校生を代表して、生徒会長の角田 美樹さん(久美浜中出身)が、峰高のスローガンである「求めてやまじ高き理想を！」は、「峰高生の勉強、部活、学校生活で高い理想を持つ気持ちを表したものです。この気持ちを胸に、一瞬一瞬を楽しみ、何事にも真剣に向き合ってください。そうすれば必ず充実した高校生活になります。」と新入生を歓迎する言葉を送りました。

新入生歓迎クラブ紹介



写真部



少林寺拳法同好会

4月13日(木)新入生歓迎クラブ紹介を行いました。生徒会長の挨拶で幕を開け、各クラブ員が、日頃の練習を実演したり、動画やパフォーマンスでアピールするなど、趣向を凝らした内容で自分たちの部活動を紹介しました。新入生は約一週間、クラブ見学や体験入部を行い、ほとんどの新入生がクラブに入部し、充実した高校生活を送ります。



軽音楽部



ソフトボール部



美術部



バレーボール部



野球部



ソフトテニス部



ESS



吹奏楽部



茶道部

教育方針

教育スローガン(校是)

「求めてやまじ 高き理想を！」

教育方針

真知に徹す

(真理を尊び、その探究に徹する態度の育成を目指す)

情操の洗練

(情操の涵養に留意し、円満な人格の完成を目指す)

健康の保持増進

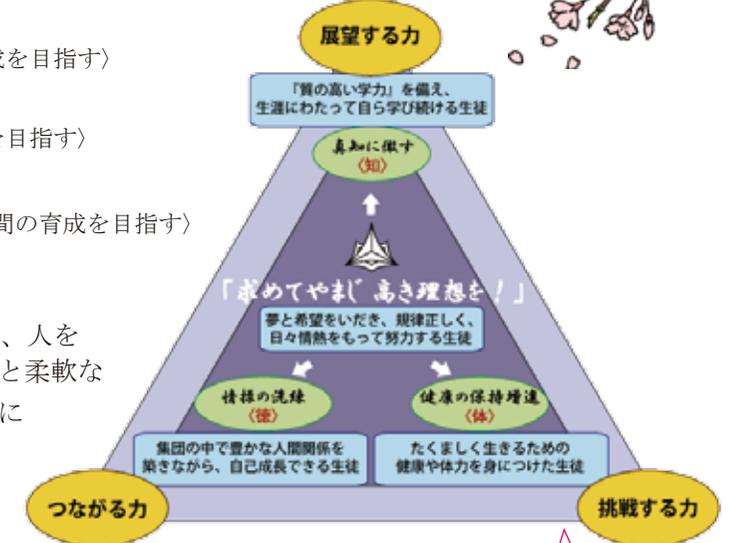
(保健と鍛錬に努め、心身ともに健やかな人間の育成を目指す)

教育目標

心身ともに健康で、礼儀と規律を重んじ、人を思いやり、郷土を愛するとともに、高い志と柔軟な国際感覚をもって自己を高め、創造力豊かに社会に貢献できる人間を育てる。

目指す生徒像

- ◇ 夢と希望をいだき、規律正しく、日々情熱をもって努力する生徒
- ◇ 「質の高い学力」を備え、生涯にわたって自ら学び続ける生徒
- ◇ 集団の中で豊かな人間関係を築きながら、自己成長できる生徒
- ◇ たくましく生きるための健康や体力を身につけた生徒



三角形の外側は京都府の府旗(赤紫色)、内側は峰山高校の校旗(紺色)をイメージしています。

新入生の抱負

高校生活では、自分の可能性や世界を広げたいと思っています。そのために、まずは友人関係を大切にしたいです。

小学校の頃は、学校も小さくクラスメイトも少なかったので、いろいろな事にふれる機会がありませんでした。でも、中学に入って、多くのクラスメイトや同級生、先輩、後輩たちと接することで、これまで興味なかったことにも挑戦してみようと考えられるようになり、それまでの自分の考え方が大きく広がったと感じました。

高校では中学以上にたくさんの人とふれあう機会があります。不安なこともありますが、とにかく高校での出会いを大切に過ごしたいです。そして、たくさんの人と関わって興味を持ったことには、怖がらずに挑戦したいです。いろいろなことにふれることでたくさんの経験をしたいです。

(普通科 女子)



高校生活では、学習、部活動の文武両道と行事を頑張っていきたいです。もともと文武両道が目的でこの高校を受験しました。だから、時間を大切に、どちらにおいても、学校だけでなく、家でも努力を怠らないようにして両立をはかりたいと思っています。

また、行事などにおいては、中学校での生徒会の活動の経験を活かして、みんなを引っ張っていけるように頑張っていきたいと思っています。

高校生活の3年間で悔いの残らないように全てにおいて全力で取り組んでいきたいです。

(普通科 男子)

地域活動プロジェクト 『歩いて迎える丹後震災の記憶』 街歩き

1927年3月7日に発生した地震により、本校がある旧峰山町ではほとんどの家屋が全壊全焼し死亡率は実に24%に達しました。その丹後震災から90周年となる3月に、地学研究部が作成したマップを使い、有志の生徒からなる街歩きガイドチームが地域の人を案内する『歩いて迎える丹後震災の記憶』街歩きを実施しました。12月にガイドチームを結成、1月に神戸市内で阪神淡路大震災の学習、そして期末考査後の一週間で練習を重ね本番を迎えました。3回の街歩きで峰山小学校の5年生児童と一般の人約60名を案内し、90年前に震災に遭った人々の体験や想いを伝えることで、防災に対する関心を高めることができました。



全性寺から見える風景と震災直後の写真を比べ震災が本当にあったことを確認します。



義援金の一部で建てられた震災記念館では、かつて慰霊祭が行われていました。



記念館には5枚の画が飾られていて、震災に関する様々な事が描かれています。



古殿町では、工業学校の先生による消火活動と生徒による人命救助を説明しました。



峰山小の震災殉難碑には死亡した206名の子どもと8名の先生の事績が刻まれています。



死亡率が42%に達した呉服町では、住民の方に聞いた震災の教訓を説明しました。



震災後に作られた「慰霊祭の歌」と「震災復興歌」を殉難碑の前で合唱しました。



紙で作った家を揺らし、屋根の重さや耐震構造と揺れの大きさを調べました。



案内を終えて峰山小の児童の感想を聞いているガイドチームのメンバーです。

合格体験談を聞く会



3月17日(金)に、「合格体験談を聞く会」を行いました。この春卒業し、国公立大学に進学予定の3名が、勉強と部活動の両立や勉強方法、それぞれの大学を選んだきっかけなど自分自身が体験したことを失敗談も交えながら後輩に語ってくれました。在校生は真剣な眼差しで先輩の話聞いていました。進路実現に向けて頑張ってくれることを期待します。

アカデミック・インターンシップ

企業実習 3月14日(火)、15日(水)の2日間にわたり、株式会社日進製作所・株式会社積進・株式会社タンゴ技研の3社の協力で企業実習を行いました。本年度は1、2年生合わせて14名が参加し、それぞれ自分の希望する企業で実習を行いました。実習では、会社紹介、工場見学など会社の概要説明を受けた後、シーケンス制御、製品の企画・設計、CAD設計といった製造業における一般的な業務体験を行い、社員の方々の指導の下、生徒同士が相談しながら、普段の授業では体験出来ない課題に取り組みました。

講義 3月13日(月)に、理工系大学進学を目指す生徒を対象に、京都工芸繊維大学教授の桑原教彰先生より「理系大学で学ぶ高校生が考えておくべきこと」というテーマで講義をしていただきました。先生の専門である情報工学と人間科学の分野から、顔認証を一例に、人工知能における研究課題の一つである機械学習の基本的な考え方や、研究には医学的な専門知識や数学の基礎知識など様々な分野の学問が必要となる事を紹介していただきました。

最後に、現役の2名の大学生から大学生活に関する話や進路の選択など、これから進路を決める高校生にとってより身近な情報を聞くことが出来ました。



タンゴ技研
日進製作所
積進
企業実習の様子

アカデミックミネ特別授業 ～ 東日本大震災6年、丹後震災90年 ～

東日本大震災の発生以来、毎年3月11日頃に東日本大震災をテーマにした特別授業を開催し、校内外の色々な人の話を聞いて、震災や復興、被災地支援活動について学んできました。6回目となる今年は、第一部「南海トラフ巨大地震に挑む研究の現場から ～京都大学防災研究所の研究～」、第二部「東日本大震災から6年～峰高生の被災地支援活動～」、第三部「丹後震災から90年～震災の記憶をつなぐ～」というテーマで3月10日に実施し、被災地に思いを馳せながら震災に関わって幅広く学ぶ事ができました。



京都大学の伊藤先生による、プレート境界で発生する地震の研究の講義。



伊藤研究室の大学院生のお話。高校の勉強と大学の研究の違いが分かりました。



「ふくしまこどもキャンプ」のお話。ボランティアで参加した生徒も報告しました。



陸前高田市に図書館を建設する「ゆめプロジェクト」に取り組んだ生徒会の報告。



京丹後市の新谷さんには「丹後震災90周年」という講義をしていただきました。



地学研究部は「歩いて迎える丹後震災の記憶」というテーマで研究成果を発表。